

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経営学 I business administration I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(上級ビジネス実務士必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 起業家教育 I・II、ビジネス実務総論 I・II、経済学、起業演習、起業論、マーケティング I・II、経営組織論、知的戦略マネジメント論、				
同時に履修しておくことが望まれる科目 起業家教育 I、経済学、ビジネス実務総論 I、起業演習、経済学、マーケティング I				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館 2F	木曜日 12:10~13:00		授業中に指示します
授業の概要 はじめて経営学を学習する人を対象にできるだけ事例を挙げながら、大学生として経営学を学ぶ意義や企業の種類、経済社会における企業の役割、社会における企業の社会的責任といった今日の経営学の基本的事項を取り上げる。また、受講者のほとんどは、将来、企業に就職を希望するものであるため、現代企業の雇用問題も取り上げる。受講者は現代社会における初歩的なビジネスの問題を理解できるようになる。				
授業の目標 ①経営学の基礎概念や理論を活用して、現代ビジネス社会の問題を捉え、それを説明できるようにする。 ②企業形態を理解して、現代の株式会社の行動を説明できるようにする。 ③現代企業におけるCSR(企業の社会的責任)の必要性を理解して、それを説明できるようにする。				
授業の方法 基本的に講義方式であるが出来るだけ対話方式を取り入れて受講者の理解を深めたい。また、DVDなどの映像も使用して理解を深めたい。				
学習の成果(学習成果) 経営学の基本的知識や理論を活用して、現代企業の行動やビジネス問題を理論的に考え、それを説明できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	大学で経営学を学ぶ意義(仕事とは、経営学、個人が身につけるべき経営能力)			
第3回目	現代社会における起業の役割(われわれの生活と企業、経済社会における企業の役割)			
第4回目	企業の種類①(企業形態とは、出資にともなう責任と権限、われわれは何故会社を作るのか)			
第5回目	企業の種類②(私企業と公企業、個人企業と共同企業、個人企業と法人企業)			
第6回目	会社法における会社の種類(会社法とは、株式会社、合名会社、合資会社、合同会社)			

第7回目	株式会社の特徴と仕組み①(株式会社の歴史、株式会社の資金調達、企業金融における有利性)	
第8回目	株式会社の特徴と仕組み②(株式会社の仕組み)	
第9回目	所有と経営の分離①(所有と経営の分離とは、経営機能の歴史的分化) 小テスト	
第10回目	所有と経営の分離②(専門経営者の出現、バーリー・ミーンズの実証研究、わが国の所有と経営の状態)	
第11回目	コーポレートガバナンス(コーポレートガバナンスとは、わが国におけるコーポレートガバナンス状況)	
第12回目	企業とステークホルダー(ステークホルダーとは、Good Willの獲得と企業行動、企業の利害調整機能)	
第13回目	企業の社会的責任(CSR)	
第14回目	経営学 I に関する理解度を確認するため、講義全般の範囲を対象とした試験	
第15回目	まとめと一連の講義の振り返り(授業の補足すべき内容の説明や受講者からの質問に答える)	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	30%	評価の基準 最高水準(S)としては無遅刻・無欠席で、授業に集中し講義への質問を積極的に行うこと。
レポート		
調査報告書		
小テスト	10%	最高水準(S)としては、基本的専門用語を90%正解すること。
試験	60%	最高水準(S)としては、課題の趣旨を理解して、必要な専門用語を駆使しながら論理的一貫性をもって論述すること。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書 片岡信之編『はじめて学ぶ人のための経営学 ver.2』 文真堂		
履修上の留意点・ルール		
欠席や遅刻、私語は慎むこと。無断欠席:5点減点。遅刻2回:5点減点。飲食物の持ち込み禁止。携帯はマナーモードにすること。		